行 政 視 察 報 告 書

平成28年５月

市庁舎等建設に関する調査特別委員会

1　視察実施日及び視察先

⑴　平成28年５月19日（木）　雲南市

⑵　平成28年５月20日（金）　庄原市・真庭市

2　調査事項

⑴　防災拠点としての整備

⑵　市民サービス機能

⑶　ユニバーサルデザイン

⑷　地域の特色を生かした整備

4　参加者

委員長	宮崎春貴	
副委員長	古西祐子	
委員	村岡栄紀	
委員	高瀬洋	
委員	坂部武美	
委員	浅田康子	
委員	村井正信	
委員	林晴信	
議長	村井公平	
随行	久下雅生	（都市経営部新庁舎建設準備　主幹）
随行	高瀬崇	（議会事務局　主幹）

雲南市

１　市の概要

⑴　市制施行年月日　　平成16年11月１日

⑵　人　　口　　40,295人（平成28年４月末現在）

⑶　面　　積　　553.18㎢

２　調査事項

⑴　新庁舎の概要

ア　所 在 地　島根県雲南市木次町里方521-1

イ　敷地面積　6,864.49㎡

ウ　建物概要

・建築面積　2,347.18㎡　　・延べ面積　7,628.42㎡

・地上５階建て

エ　構　　造　鉄筋造（制震構造）

オ　竣　　工　平成27年８月

カ　総事業費　38億６千万円（財源：合併特例債、補助金・交付金）

⑵　防災拠点としての整備

・制震構造による高い耐震性（重要度係数 1.5）を確保

・災害時機能保持のため、電気・水道・通信の徹底したバックアップ

・自家発電設備により、災害応急対策活動に必要な電力を72時間確保

・庁舎（２階会議室）は、一時的避難の場所として設定

・庁舎に関わる防災資材等は２階の備蓄倉庫に備蓄

⑶　市民サービスの充実

・総合案内窓口を設置（臨時職員２名で対応）

・ワンストップサービスは未導入

⇒現状では、必要に応じて職員が移動して対応（ 1.5ストップ）

・１階に市民需要の高い課を配置

⇒できるだけワンフロアーで要件を完結できるように設置

・１・２階は課名でなく業務内容を表示し、３・４階は課名で表示

・各階フロアーカラーを採用（雲南市ゆかりの木や花の色を採用）

・カウンターにはすべてパーテーションを設置

・各フロアに個室の相談室を設置

・２階の６室の会議室は、夜間・土日は市民開放（有料）

⑷　ユニバーサルデザイン

・全フロアに多目的トイレを設置

・エレベーターは、車椅子対応及びストレッチャーも入るように工夫

・各階段への手すり・授乳室・キッズコーナーを設置

・給湯室や休憩スペース（職員用）が不十分との意見もある。

⑸　地域の特性の活用
・ロビーの一角をギャラリーとして活用
・ロビーも一般開放し、講演や物販で活用
・庁内の各所に木製の本棚などを設置
⑹　その他
・来庁者用駐車場約80台、公用車駐車場80～90台（やや離れた場所）
・市民バスの停留所となっている。
・喫茶等の設置なし（工事費縮減のため、検討したが未設置）
・中心市街地活性化事業を検討中であり、ホテルの誘致を目指す。

庄原市

１　市の概要
⑴　市制施行年月日　　平成17年３月31日
⑵　人　　口　　37,230人（平成28年４月末現在）
⑶　面　　積　　1,246.49㎢

２　調査事項
⑴　新庁舎の概要
ア　所 在 地　広島県庄原市中本町一丁目10番1号
イ　敷地面積　3,896.80㎡
ウ　建物概要
・建築面積　1,685.18㎡
・延べ面積　7,429.47㎡
・地上６階　地下１階
・高さ　24.2m
エ　構　　造　鉄骨・鉄筋コンクリート造（一部、鉄骨造）
オ　総事業費　36億８千万円（合併特例債、補助金、交付金）
⑵　防災対策について
・耐震構造（予算の関係もあり、免震構造は採用できず。）
・屋上に自家用発電機を設置し、約４日間非常用電源を確保
・市民ホールは、災害時の救援体制、一時避難所として利用
・市民広場は、市民ホールと一体的に防災広場として利用
・屋内消火栓及びトイレの洗浄水として雨水を利用
・６階に備蓄倉庫を設置
⑶　庁舎の特色について
・庁舎がまちなみと調和することを重要視して設計
・環境にやさしい環境配慮型庁舎

・シンボルツリーの設置（樹齢80年、高さ11ｍ、幹周り2.2ｍ）
・議場内の壁面にマツ・ブナ・サクラ・スギ・ヒノキ・ナラを使用
・旧市町で使用していた議場家具等をリユース
・議会の決議により建設費が圧縮され、必要な機能が不十分
（執務室が非常に狭い、複層ガラスの部分採択、授乳室未設置など）
⇒必要な整備は行うべきであったと考えを改めている。
・庁舎整備に当たり、将来の機構改革なども見据えた整備が必要
⇒特に会議室の確保

真庭市

１　市の概要
⑴　市制施行年月日　　平成17年３月31日
⑵　人　　口　　47,427人（平成28年５月１日現在）
⑶　面　　積　　828.53㎢

２　調査事項
⑴　新庁舎の概要
ア　所 在 地　岡山県真庭市久世2927-2
イ　敷地面積　18,750.30㎡
ウ　建物概要
・延べ面積　7,959.03㎡
（庁舎:7,353.41㎡、エネルギー棟:605.62㎡）
・本庁舎　地上４階　エネルギー棟　地上２階
エ　構　　造　鉄筋コンクリート造
オ　工　　期　平成21年３月から平成23年３月
カ　総事業費　27億3,500万円（合併特例債、補助金）
⑵　防災拠点としての整備
・耐震構造にすることと、堤防の決壊を想定し、電気室やサーバー室は２階、３階に配置
・72時間対応の自家発電装置を設置（３分の１を賄う）
・３階のサーバー室は床免震機能を入れている。
・危機管理部門、市長・副市長室は、災害対策本部を設置する３階に
⑶　市民サービス機能
・１階の利用頻度の高い部署を設置
・カウンターを一文字にし、どこからでも見やすいように工夫
・総合窓口は配置できる職員が限定されるため、総合案内を設置
・場合によっては、職員が下りてきて対応する。
・オストメイトトイレ、キッズルームを設置

⑷　ユニバーサルデザイン

・平成24年に岡山県ユニバーサルデザインの最優秀賞を受賞

⑸　地域の特色を生かした整備

・木の回廊（９本の柱が合併前の９町村を意味し、屋根を真庭市と見立ててそれぞれが支えるというイメージを表している。）

・回廊の材料費だけで約3,500万円

・当時の市長からは、とにかく木を使えという指示

・木に関連してバイオマスボイラーを設置し冷暖房を賄う。

・地域産のペレットを使うので地域でお金が循環するのがメリット

・ランニングコストも安く、二酸化炭素の抑制にも繋がる。

・４月１日以降、地域のバイオマス発電所の電気を購入

～　所　感　～

「所感」

宮　﨑　春　貴

雲南市新庁舎

新庁舎の概要は、敷地面積6,864.49㎡、建築面積は、1,999.18㎡、鉄骨造（制振構造）地上５階建　総工費38.6億円となっている。

建築場所についてハザードマップ上では、１ｍの浸水地域となっている。

建物は、ほぼ正方形でしっかりとした作りになっているようにみえた。内部は、センターボイド（中央吹き抜け）を配し、エレベーターによって、各階へスムーズに移動できるように配慮されている。また、吹き抜け空間であることから、上部からの太陽光によって庁舎全体を明るくしている。センターボイドの上部４階、５階の面には、ウォータールーバー（水の日よけ）を設置し、自然採光を取り入れながら、ガラス面には地下水を上部から掛け流し、熱負荷を軽減している。

外観は、東面、西面には、格子の日よけ、これは「ヤマタノオロチ伝説」に因んでスサノオノミコトの剣に見立てた日除けのルーバーを設置して、太陽高度の低い時間帯の外壁日射負荷を軽減している。

南面は、各階の避難ルート、庇としての日除け効果も考えバルコニーが設置されている。

一階の多目的ホールは、市民サービス窓口と共に様々な交流スペースとして活用できるようになっている。また、多目的ホールのガラス面は大きく開放することが出来、災害時、イベント時には駐車場と一体的にホールを活用することが出来るようになっている。自然採光、自然通風、地産地消の木質チップ、地下水、雨水、太陽光発電など環境に配慮している。こ

のように環境に配慮することは、大変参考になるものと考える。
防災拠点としては、２階に一時的な避難所、災害対策本部は３階に設置し、Ｊアラート、河川のカメラ情報（８台分）、ネット、ＴＶ、など整備されている。備蓄については、庁舎の２階に他は、旧町の役場に備えている。
市民サービス機能、フロアマネージャーを配置しており、臨時職員２名で対応、案内、誘導、また苦情も受けている。ワンストップサービスの導入は、現在の職員数では負担が大きく出来てはいない、代わりに窓口へ職員が出ていく、また職員が入れ替わることで対応している。
案内表示については、１，２階は業務の内容を表示し、３，４階は課名の表示としている。各階フロアカラーを決めているのも分かりやすいのではないかと考える。
ユニバーサルデザインについては、多目的トイレは各階に整備されている。エレベーターはストレッチャーも使えるようになっている。職員からは、職員同士で会話ができるスペースが欲しかった、また給湯室、休憩室がもう少し大きければとの声が出ていたとのこと。
全体として環境に配慮し、機能面でもよく考えて建設されていると感じた。西脇市の新庁舎の参考になる部分があると思う。

庄原市新庁舎

新庁舎の概要は、地上６階、地下１階、鉄骨・鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）敷地面積3,896.80㎡、建築面積1,685.18㎡、延床面積7,429.47㎡（職員、議員１人当たり22.7㎡）駐車台数約 150台となっている。
庁舎の特徴は庄原市の気候や自然、産業特性、環境エネルギーなどを取り入れた「環境配慮型庁舎」となっている。市民ホールやロビー等に地元産の木材を使用している。旧市町で使用していた議場家具等の備品を再利用している。
防災対策については、新耐震基準に適合した耐震構造とし、屋上には約４日間の非常用電源確保可能の自家発電機を設置している。災害時には防災対策室は３階に配置し災害対策本部を置くこととしている。市民ホールは、災害時の救援体制、一時避難所として利用。市民広場は防災広場としての機能を持たせている。情報伝達機能は特には設置されていない。
ユニバーサルデザインの導入については、分かりやすいアプローチ、段差のない安全な建物外通路、階移動が容易な内部導線、利用しやすい多機能トイレ、障害者に配慮したエレベーター、利用しやすい窓口カウンターなど、バリアフリーに配慮している。
市域の84％が森林であり、豊富な森林資源がある。木質ペレットを木質バイオマスボイラーで燃焼させ，その熱を使用。夏季は、吸収式冷温水器

で冷水を作って冷房に使っている。効果については、従来の灯油焚きボイラーと比較して、年間92ｔのCO2削減となっている。また地中熱も利用して空調、融雪にも利用している。庁舎は、地下１階、地上６階建てで、建物規模を考慮して免震工法は採用せず、ＳＲＣ造（鉄骨、鉄筋コンクリート造）となっている。当初、工事費は41億17百万円を予定していたが、議会の決議で39億円となり建築工法にも影響があったのではと推測する。最終的には36億８千万円となっている。問題点として、会議室、相談室が少なくまた庁舎全体も狭く感じた。

最後に担当者の方から、庁舎の位置、庁舎の内容については特に、本当に何が必要なのか十分に見極めことが大切と言われたことが印象的であった。

真庭市新庁舎

新庁舎の概要は本庁舎棟、鉄筋コンクリート造４階建7,353.41㎡、エネルギー棟は、鉄筋コンクリート造２階建 60.62㎡、サーバー室のみ床免震構造、総事業費27億3,500万円、用地は旧久世町役場の跡地で、北京オリンピックの後で予算よりも５億円安くなっている。

外観は正面入り口の前に、真庭回廊と名付けられた木造の屋根が作られている。無垢の木材が使われ工費は約８千万円かかっている。庁舎自体の外観はこの回廊が無ければ本当にシンプルで特徴のない建物に見えた。

防災拠点として１階は浸水の可能性があり、電気室は２階でサーバー室は３階で床免震としている。庁舎使用電力の三分の一を72時間まかなえる500kwのガスタービン発電機を備えている。

市民サービス機能としては、一文字カウンターとして一目で分かるようにしている。また各課に番号（椅子の後ろに番号）を付けサインによってわかりやすいようにしている。総合案内は、職員が一階において対応をしている。

ユニバーサルデザインの導入では、トイレはオストメイトに対応している多機能トイレとなっている。またトイレは１階から４階まで全てにおいて同じ仕様になっており、迷うことのないように配慮されている。キッズルームも配置し子どもにも配慮されている。

地域の特色を生かした整備では電気は地域のバイオマス発電所から購入し、チップボイラ、ペレットボイラでは地域資源を活用している。太陽光発電システムを採用し庁舎全館の使用電力の15％を賄っている。担当者より真庭市役所は市内産で動いていると説明があった。

今回は、３か所の新庁舎を視察したが、その地域に、それぞれの市の事情にあった庁舎を建設されたと感じた。建設時には一番良いものとして建

設されたと思うが、実際に使い何年か時が経てば不具合とまではいかないが、使い勝手が悪いなどの問題が出てきているように思えた。このような事案ができるだけ出てこないような、あらゆる面からの検討が必要になるのではないかと考える。

「『市庁舎等建設に関する特別委員会』視察所感」

古　西　祐　子

島根県雲南市

雲南市は、人口40,295人、面積553k㎡で、西脇市（人口41,877人、面積132k㎡）と比較すると、ほぼ同じ人口だが、約4.2倍の面積を持つ町である。

平成16年11月に６町村が合併したことで、市域も大きく広がった。６つの支所を持ったまま、新たに本庁舎が建設されたことを知り、驚いた。

市庁舎は、合併11年目、平成２７年8月に完成したばかりの真新しい洗練された建物だった。総工事費38.3億円（合特債31.6億、補助金・交付金 3.7億、一般会計３億）。５月のさわやかな季節であったせいか、開放された窓から、気持ちのいい風が入って来る。窓の外に目をやると、斐伊川の流れと、対岸への橋が見えた。西脇市の現市庁舎と、似たような立地に建っているなあと、思わぬところで印象に残った。

雲南市の庁舎建設では、位置の選定に苦労されたそうだ。４ヶ所の候補地からの選定で、都市計画上、重要な場所ということで、合同庁舎の隣に決まった。いうなれば、雲南市ではここが新たなシビックゾーンなのか。

６町村合併のため、中心市街地がなく、橋の対岸地域に今後形成していく予定と説明を受けた。人口が減少していく時代に、新たに中心市街地を作っていくというその考えに、私は密かに驚いた。そのためなのか、元々なのか、幹線道路が片道３車線もありとても広い。確かにこれなら、商業施設が自然と張り付いていくのかもしれない。

同じ人口の西脇市は、中心市街地の衰退が長年に渡って進んでいるというのに。西脇の 4.2倍もの面積を持つというその地域的特性などがそうさせるのか、市庁舎建設という視察テーマとは外れるが、そんなことが気になった。

また、ここの庁舎も１ｍの浸水地域にある。よって、１階には重要なものは置かず、災害対策本部室や備蓄倉庫は２階に配置されている。避難場所としても、庁舎は一時的な場所でしかなく、長期避難には、近くの小学校が指定されているという。

視察を重ねてわかったことだが、浸水地域に建てられた庁舎は意外に多い。

庁舎は５階建てで、お決まりのように最上階が議会フロアだ。各階、フロアカラーを採用し、わかりやすさの工夫をしている。その５色がどれも

とてもきれいな色で、階によって色が違うことで、なんとなく楽しい気分になり、私としては好印象だった。

そして、この庁舎の１番の特徴は、「省エネルギー・省資源に配慮し、環境にやさしい庁舎」というコンセプトにも表れているように、環境型建築だというところだ。

再生可能エネルギーとして、地産地消の木質チップで作った温水で暖房を補助し空調をまかなう木質バイオマス利用は、まったく暖房を使わずこの熱だけで冬場をのりこえられるということで、電気代の削減につながっている。その他、トイレの洗浄に雨水を利用したり、センターボイド（中央吹き抜け）、ウォータールーバー（水の日除け）、全館自然調光ができるＬＥＤ照明、太陽光発電など、様々な点で環境型建築が取りいれられている。

また、防災の備えとしては、免震ではなくとも高い耐震性を確保できるとして制振構造が採用されると共に、72時間稼働可能な自家発電機も設置されている。

開庁後、新しい庁舎を使い始めて感じる不具合や不便さが、どこの庁舎でもあるようだが、雲南市の場合は、給湯室や休憩室が欲しかったという苦情が少しあるらしい。これらは、職員のコミュニケーションのためにもある方が良かったようだ。参考にしたい。

最後に、職員駐車場についてだが、本庁舎・支所とも、車で通勤する全職員は駐車場代１ヶ月1000円が自己負担となっている。本庁舎の場合、敷地外に民間駐車場などを確保していて、一番遠い駐車場からだと800ｍ位歩くそうだ。

広島県庄原市

庄原市は、人口37,230人、面積は 1,246k㎡で、西脇市より人口は少し少ないが、面積にいたっては約 9.4倍もの広さを持つ町である。

平成17年３月に、１市６町が合併した。広島県最大の市域を有し、その広さは広大で東西53ｋｍ、南北42ｋｍもあり、香川県の３分の２ということだ。

新庁舎は、地上６階、地下１階の建物で、ここでも最上階に議会フロアを配している。旧庄原市の庁舎があった場所に周辺の土地約 5,800㎡（全敷地の３分の１程度）を買い足して建てられた。場所についての選定は、旧庁舎が建っていた場所が中心市街地であり、新庁舎がその場所から離れることは、中心市街地の衰退に繋がるということもあり、ほとんど迷うことなく現有地が選定されたという。

ただ、市域が広いにも関わらず、庁舎は３方位お寺に取り囲まれた少し狭苦しいようなところに建っていて、駐車場の確保も十分ではなさそうだった。中心市街地を守るためにした、致し方ない選択だったことがうかが

えるが、用地代３億１千万円、補償費３億３千万円で、合計６億４千万円ものお金をかけている割には、う～んと、首をかしげたくなる気もする。その辺のところのいきさつとか、ちゃんと聞いておくべきだった。

新庁舎は、合併後比較的早く、平成21年２月には竣工されている。

それは、合併協議会の時から新庁舎は旧庄原市で建設することが決められていたからのようだ。平成17年３月の合併時当初の新庁舎建設予算は51億円であったが、その後財政面の危機感から、平成18年１月に 41.17億円に予算圧縮、さらに平成18年12月には議会が予算圧縮決議をし39億円になり、最終的には、当時の経済情勢で資材が安く購入できたことなどからさらに圧縮して、36.8億円（合特債26.2億円、庁舎建設基金 5.1億円、一般財源0.2億円、補助金・交付金 5.3億円）の事業費となっている。

結果的に、当初の予算から比べると、大きく予算を削った庁舎になったのだが、そのせいかそのしわ寄せが、いろいろな点で出ているということだ。

例えば、免震構造を取り入れられなかったことや、複層ガラスが北面と西面には入れられたが、東面には入れられず、その居住性の差は大きいこと、また執務室がかなり狭く、機構改革に対応できにくいこと、会議室が非常に少なく日常的に苦慮していること、防災対策室位しか大きい部屋がないこと、女性に配慮した授乳室や職員の休憩室がないことなど、諸々出てきているそうだ。

庄原市の担当の方から、新しく庁舎を建てる私たちへの助言として、庁舎は、50年60年と使うものであるから、何が必要なのか、じっくり議論して決めて欲しい。お金に糸目を付けずいい物を作った方がいい。市民の目、女性の目から見た庁舎づくりをして欲しいという言葉をいただいた。しかし、建設前は、どこの市でも予算圧縮の論調になってしまうのだろう。さて、西脇市ではどう進んでいくのか。

特に印象に残ったのは、副議長さんが２度までも繰り返し言われた、女性のための授乳室や休憩室は絶対いるよという言葉など、女性の意見を取り入れる重要さを示された点だ。

さて、庄原市も雲南市と同様、環境配慮型の庁舎がコンセプトだ。

市域の84％を森林が占める豊富な森林資源を使った再生可能エネルギーとして、木質ペレットを木質バイオマスボイラーで燃焼させ、その熱源を使った空調システムを取り入れている。屋上に自家発電機を設置し、約４日間の非常用電源の確保をしている。また、地中熱利用や雨水利用などで、ランニングコストの削減が図られている。

その他、地元産木材を使った大きなシンボルツリーで庄原市ならではの特徴を出したり、旧市町の庁舎で使用していた家具や備品を再利用するなど、あちこちに知恵と工夫が散りばめられている庁舎と感じた。

職員数は、本庁舎 330名、支所も含むと全職員で 590名と多い。市域が雲南市と比較しても 2.2倍広いということは、イコール行政コストも多く

なっているであろう。これは、山間部のまちでは致し方ないのだろう。
最後に駐車場だが、お客様兼公用車用として約 150台が整備されているが、職員用の駐車場は雲南市同様、敷地内には確保されていない。車で通勤してくる職員さんは、周辺の民間の駐車場を自分で確保することになっていて、駐車代金の半額を市が補助するやり方で、平均的に１ヶ月 2,000円位の補助が多いということだ。遠い駐車場で約 500m位歩くらしい。ちなみに新庁舎になる前は、今の西脇と同じ方式で、市役所敷地内に無料で停めていたそうだ。

岡山県真庭市

真庭市は、人口47,427人、面積は828k㎡で、西脇市（人口41,877人、面積132k㎡）と比較すると、人口は西脇市より約5,500人多く、約 6.2倍の面積を持つ町である。
真庭市も庄原市と同じ、平成17年３月に合併した。５町４村の９自治体が合併し、東西に30ｋｍ、南北に50ｋｍに市域が広がり、岡山で一番大きく、11％の面積を持つ。（香川県の約半分の面積）
市域の８割が森林で豊かな自然に恵まれ、その豊富な森林資源を活用し「バイオマスタウン真庭」として、全国から注目されている。
森林の６～７割が人工林であり、その半分がヒノキだという。新庁舎の前面、真庭産の無垢のヒノキをふんだんに使った美しい建造物に目を奪われる。「真庭回廊」だ。緩やかな弧を描くその回廊は、ヒノキの組柱９本で支えられている。合併自治体９カ町村がひとつとなって、輝く未来を築いていくことを顕したその柱は、１本50～60万で４本セットが９組、全部で36本もの無垢のヒノキを使った贅沢なものだ。
真庭市の担当者は、庁舎の事務所として使うところはシンプルに、まちのシンボルである回廊はゴージャスにと、メリハリをつけたと話す。その柱に触ると、木の持つ癒しと、そしてパワーが伝わってくる。こうやって庁舎の中に一流の良いものを使うということは、市民の心も豊かにしてくれるだろうと感じる。
庁舎は、平成23年３月に竣工した。総事業費 27.35億円（合特債 14.87億円、庁舎建設基金4.51億円、補助金7.47億円、一般財源 0.463億円）。職員数は本庁舎約 350人、その他支所などに約 100人で、合計 450人
９つもの町村が合併したため、庁舎建設場所決定には、熾烈な陣取り合戦があったという。選定には、メリットデメリットを公平に記した採点方式により、今の場所に決まった。
４階建ての建物で、４階に議会フロアがある。４階の議会フロアの窓から外を眺めると、そこには旭川の雄大な流れと、向こう岸にかかる橋が見える。真庭市も昨日訪ねた雲南市と同様、西脇の現市庁舎とよく似た立地である。美しい川の流れをいつでも眺められるのは気持ちが良いものだと

感じた。

西脇市の庁舎が､カナート跡地になればその景観が楽しめなくなるのは、少し残念な気もする。しかし、将来の町の発展に寄与する場所、それが新しい庁舎に求められる最大の使命であると私は思う。それを考えると、現在地よりカナート跡地に軍配があがる。

防災についてだが、庁舎は一級河川旭川のすぐ横の立地だが、この場所はかろうじて浸水地域ではないようだ。しかし万一に備え、電気室は２階に、災害対策室は3階、サーバー室は床免震の上3階に配している。また、72時間の自家発電が可能で、庁舎の３分の１の電気がまかなわれる。

真庭市と言えば、木質バイオマスだ。本庁舎棟の隣にエネルギー棟が建ち、木質バイオマスエネルギーの活用が行われている。木１本を木材に使った場合、残り約半分の削りカスが出る。それを細かくチップ化し、バイオマスボイラで燃焼させ、そのエネルギーを冷暖房に利用する。庁舎内ほぼすべての空調容量がまかなわれるそうだ。

真庭産のチップなど（ペレットは真庭率30％）を使うことにより、エネルギーを地産地消しながら、外貨を稼ぐ。24時間稼動していて、油を使う発電の３分の２のコストですむし、環境にやさしい。庁舎の屋上には、太陽光エネルギーも設置され､庁舎内の約10～15％の電力をまかなっている。

また、平成28年４月よりＣＬＴ事業が動き出した。日本最長の12ｍ（４階建ての高さ）の柱が取れる工場ができ、真庭市のＣＬＴ工法はますます注目されてくるだろう。西脇市の新庁舎も是非真庭のＣＬＴ工法でと、営業をかけられた。

真庭市では、庁舎建設前の、基本設計（案）の段階で、障がい者団体に対して新庁舎の事前説明会を開催した。その説明会で出た障がい者からの要望は､貴重な視点が詰まっている｡障がい者用駐車場に屋根をつけたり、同時にそこにはインターホンを設置したり、エレベーターのかごの大きさを盲導犬がＵターンできる位や、ストレッチャーが入る広さのものにしたり、サインも見やすく配慮したりなどだ。西脇市も、できるだけ多くの市民の声に耳を傾ける姿勢を持ち、説明会などを開催して欲しいと思う。

こんな素晴らしい真庭市の庁舎でも、庁舎完成後に問題点・反省点は出てくるようだ。例えば、倉庫スペースがあまり確保できていないとか、休憩場所が狭いとか、トイレなどの配置を、わかりやすいようにと、各階全く同じものにしたが、結果的に障がい者の方など人によって状態が様々なため、左右反対のものが一ヶ所でもあった方が良かったなど、細かい反省点はいろいろとあるようだ。

最後に、駐車場についてだが、お客様用の駐車場は敷地内に 200台位確保されているが、職員用の駐車場は周辺の民間の土地や市の土地を借りて停めている。１ヶ月 1,600円の自己負担ということだ。１番遠い所で 300ｍほど歩くということだが､１年に１回駐車場の場所を決める抽選があり、公平性を保つ工夫をしている。しかし、この職員用駐車場の管理について

は、結構手間がかかるらしく、借りるより市が買い上げ使用する方が、楽ではないかと思い始めているという裏話もあるようだ。

こうやって調べていくと、ほとんどの自治体が職員の駐車場は、個人負担有りだった。西脇も新庁舎になったら、個人負担はやむを得ないであろう。

「市庁舎等建設に関する特別委員会　行政視察所感」

村　岡　栄　紀

平成28年５月19日（木）～20日（金）の２日間、島根県雲南市、広島県庄原市、岡山県真庭市の３つの県にわたり、ローコストでの建設やランニングコスト削減を意識して建設された庁舎の視察を行いました。今回は、その所感を報告させていただきますが、その前段として、建物の構造の説明をさせていただきます。

耐震構造、免震構造、制振構造の比較をすると、耐震構造とは、家を堅く強く造って、地震の震動に対抗すること。免震構造は、建物と地面の間に鉄球や積層ゴム製の免震装置を設置し、建物を地面から絶縁して、振動を伝えないようにすること。制震構造は、建物内部に制震ダンパー（振動軽減装置）を設置し、地震のエネルギーを吸収し、振動を抑えることを言います。

その中で、「耐震構造」については建築基準法で義務付けられており、建物を新築する際には、一定の耐震性能を「必ず確保」しなくてはなりません。義務付けられている耐震レベルは、「耐震等級１=数百年に１度発生する地震に対して倒壊・崩壊しない強度」となりますので、すべての建物が「耐震等級１以上の性能を確保している」ことになります。

ですので、まず最初に「耐震構造」を確保したうえで、「免震構造」または「制震構造」を検討するということになります。そして最も地震に対して安全性が高いのは「免震構造」です。建物の揺れを90％近く軽減させるため、建物自体への負荷を軽減させ、家具の転倒も少なくなります。しかし、免震工法にはデメリットもあります。それは、建物と地盤が別の動きをするため、周囲に空間を必要とするため、敷地をフルに活用できない場合があること。建物内外を分離させる必要があり、ビルドインガレージや車いす対応のスロープ等の設計が困難であること。台風時に建物の揺れを防ぐため建物を固定する機能があるが、固定している時に地震が起こると免震機能が働かないこと。そして、コストが高いということです。これらの条件をクリアしなくてはなりませんが、それが可能であれば「免震」

は非常に安全性が高い工法と言えます。

一方「制震工法」は、言葉通り「地震を制限する」工法ですので、地震による振動を制震装置が吸収し､建物の変形を小さくする効果があります。制震装置が建物の揺れを吸収するので、建物全体がほとんど損傷しないのが特徴です。プランニング面においても「免震工法」の様に、いろいろな条件はありません。値段的には、免震構造よりもローコストで採用することができます。ただ「揺れの軽減」については「免震工法」には及びませんので、家具の転倒に関しては転倒防止金具などを用いることが必要となります。

【島根県雲南市】
雲南市役所の庁舎の建物は「制震構造」でできています。「免震構造」も検討されたそうですが、近辺の断層のデータを考慮に入れ、実際に地震で揺れた時にどれくらいの影響が出るのかを調査、シミュレーションした結果、「制震構造」で建設することを決定したそうです。

また環境に配慮した建物になっており、木質チップを活用した暖房、冷房時のデシカント再生。地下水を循環させた冷暖房。 100%雨水を活用したトイレの洗浄水など、ランニングコストを抑えるための工夫がいたるところで見られました。

防災拠点としては、市庁舎は一時的な避難場所となっており、２階に備蓄倉庫､4 階に災害対策本部が置かれています｡また備蓄倉庫に関しては、旧の町役場であった各総合センターにも設けられています。そして、長期的な避難所としては、近隣の小学校の体育館が指定されています。

建物の構造としては、非常にシンプルな形状であり、コスト面においても効率的であり、かつ、使い勝手もよさそうに感じました。外観の見た目も、シンプルな個性のない建物に、剣ルーバーやバルコニー等、環境に配慮した装置を装備することで、それがある意味アクセントとなり、それなりにハイセンスな建物の演出をしているようにも感じました。防災拠点としても及第点ではないでしょうか。

次に庁舎の内部機能ですが、総合窓口に２名の人員が配置され、そこで各窓口への誘導が行われています。ワンストップサービスは導入されていません。ワンストップサービスに関しては、設置の議論がなされたそうですが、この規模の職員数でこのサービスを導入することは難しいとの結論に至ったようで、現在は、窓口等お客様が座っておられるところに、職員がぐるぐるチェンジして入れ替わるといったやり方で対応しておられます。

また１つの部局が１階と２階に分かれており、１階には市民になじみの深い部門を集中させることにより、できるだけ１階で用が足りるようにとの工夫がなされています。

そして特筆すべきは、１階と２階の市民の利用が多い部門では、課名の表示をせずに、業務内容を表示している点です。例えば、債権管理対策課なら「税金の支払い・納付相談のこと」、教育総務課・社会教育課なら「学校施設の管理・学校給食・社会教育のこと」、市民生活課なら「戸籍・住民登録・印鑑登録・証明交付のこと」といった業務内容を表示することにより、市民にとって非常に親切でわかりやすいサインとなっています。また、各階に雲南市の特徴あるフロアカラーを設け、色のイメージで自分が今何階にいるのかが、よくわかるような工夫がなされています。西脇市もぜひ参考にしてもらいたい、良いアイデアだと思います。

その他の特徴としては、プライバシーに関してですが、番号制を採用していない点です。検討はされたようですが、旧役場である総合センターが機能しており、利用が他の市に比べて少ないので、番号呼び出しは行っていない点と、パーテーション以外に、各階に相談室が設けられています。また２階に会議室が６室あり、夜間土日には市民に開放されています。庁舎内に食堂・喫茶はありません。庁舎に関する職員からの声としては、休憩スペースが少ない、給湯室が狭い、職員同士で語り合うスペースが欲しかった、などがあるようです。

【広島県庄原市】

庄原市役所の庁舎の建物は「耐震構造」が採用されています。「免震構造」「制振構造」も検討されたそうでが、庄原市役所の建設に関しては、建設コストの削減が大きな命題となっており、当初51億あった予算が、41億に減り、さらに、議会からの決議でもっと予算を抑えるようにとの決定が下され、39億に減り、最終的には36.8億にまで縮小されることにより、「耐震構造」以上の構造にする予算がなかったというのが理由のようです。

この件に関しては、職員の人からも、コストを削減することも大切ではあるが、庁舎を防災や地震の拠点にするのならば、大きな災害に対して著しい損害がなく、軽微な修繕で対応できる建物でいいのか、それとも災害に対してびくともしない建物にするのかを、十分に検討する必要があると述べられましたが、まったく同感です。

庁舎建替えにおいては、候補地として、インターに近い場所もあったそうですが、商店街等中心市街地活性化を目指して、旧庁舎周辺に新庁舎を建てることが決定したそうです。そして、そこに新庁舎が建つことにより、

まだまだ郊外の大型店にはお客を獲られてはいるようですが、商店街衰退のどうにか歯止めにはなっているとのことです。

しかし、旧庁舎周辺に建設すること、そして、建設コストの削減をあまりにも最優先にすることにより、多くの課題や問題点があったようです。

まず、この土地は都市計画法の用途地域において「近隣商業地域」「第１種住居地域」にまたがり、容積率が 200％の地域であるという問題です。建設段階で職員さんとヒアリングを行い、職員休憩室の設置などの希望はあったそうですが、容積率が少なすぎて残念ながら叶わず、結局、現在の容積率が 196％というぎりぎりの状態だそうです。色々な思いはあっても、法律の壁が立ちはだかるとはこのことでしょう。

そしてコスト面においても、予算の都合上、全面に複層ガラスを入れる事ができなかった点等、建設費の圧縮ばかりを考えて進められたので、使用していく中で、あったらいいといった施設が確保できていないといった問題点が出てきています。会議のできる大きな部屋は防災対策室だけであり、その他の会議室は少なく、執務室で打ち合わせを行ったたり、相談室や会議室は取り合いの状態であり、余裕の持てない会議になっているといいます。そして、このようになった原因として財政的に厳しいという問題があるのですが、財政と必要インフラをどう考えていくのかは、どの自治体においても今後の大きな課題になってくるでしょう。

最後に職員さんが言われました。新庁舎の建築という大きな事業、せっかく創るなら良い物をつくってほしい。そのためには、建設コスト削減も大事ではあるが、必要なものにはお金をかけることを前提に、何が必要なのかをじっくりと議論して、しっかりと見極めて、それを確保するために、どれだけの面積の土地や費用が必要なのかを徹底的に議論することが必要だと。いくら安くても、「安かろう悪かろう」では何の意味もありません。まさにそのとおりです。

【岡山県真庭市】

真庭市役所の庁舎の建物は「耐震構造」が採用されています。その理由として、活断層がない地域であり、地下６メートルの岩盤の上に建物が立っているということで、阪神大震災級の地震が起きても業務が続けられるというものです。この庁舎は旧久世庁舎の建物を取り壊した後に建てられたもので、当初予算は32億を見込んでいましたが、建築材料費が下落した恩恵もあり27億で完成しております。防災拠点としては、災害対策本部ではありますが、避難所としては指定されていません。ただし、電気室が２階、サーバー室が３階にあり、仮に浸水により１階が水に浸かったとして

も業務に支障がないようになっており、72時間対応の自家発電装置も設置されています。

平成17年に５町４村が庁舎を建てることを条件に、合併して真庭市になりました。庁舎の建設場所に関しては４箇所が候補地に上げられましたが、それぞれのメリットやデメリットを公正な採点方式により、現在の場所に決定しました。建設に当たっては分割発注、ＪＶ方式を採用し、すべての業務に市内の業者が携わることができるように配慮して行われています。そして分割発注により単価が高くなることを回避するために、諸経費に対しては全体工事の諸経費を採用するなど、コストダウンにも考慮しています。

次に庁舎の内部機能ですが、障害者福祉協会代表者などと、基本設計の話し合いを行い、駐車場に屋根やインターホンを設けたり、庁内のエレベーターも26人乗りと非常に広く、盲導犬や車椅子に配慮したものになっています。また各課が背番号制になっており、お客様に対してどの課に行ってもらうのかを案内をする時に「○○番に行ってください」というふうに、わかりやすく案内する工夫がされています。このアイデアも西脇市において、ぜひ参考にしてほしいと思いました。

総合案内に関しては、島根県雲南市と同様に、総合窓口にすると用途が広く、限定されるということでワンストップサービスを導入せず、あくまで総合案内として１階に配置し、お客様が座っておられるところに、職員が２階３階から降りてくるといったやり方で対応しておられます。

また、ユニバーサルデザインにおいて、平成24年岡山県ユニバーサルデザイン建物コンテストで最優秀賞を獲得しておられます。受賞理由としては、木を使っていること、障害者に配慮した駐車場の屋根、サイン誘導がわかりやすいなどです。実際に見学してみると、林業振興として「木材をいかに使うか」をコンセプトに建設されているだけあって、産地ならではの、あらゆるところに贅沢なくらい木をふんだんに使った庁舎には、どことなく癒されるものがあり、サインも強弱があって非常にわかりやすいと感じました。ユニバーサルデザインの観点からも、例えば、トイレのレイアウトの位置が各階共通にしてあり、電気の位置やトイレットペーパーのホルダーの位置などが共通になっているなど、細部にわたって配慮がされています。

特筆すべきは、やはり地域産の木材が組み込んである点です。本庁舎はもちろんのこと、本庁舎横にある、バイオマスを活用したエネルギー棟では、地域産のペレットが生産され、製品化されるので、そのための人材確

保にも寄与し、出来た製品を市外の企業に買ってもらうといった外貨を稼ぐことにも寄与し、二酸化炭素削減にも寄与するといった３つの特典があります。また今年の４月の電力自由化により、これまで中国電力から買っていた電力を、地域のバイオマス発電所から電気を買い、太陽光なども活用しながら、市役所の電力のすべてを地域でまかなっているという点は、これからの地域のあり方を示唆するものであるのではないかという思いもしました。

「市庁舎等建設に関する特別委員会行政視察報告　島根県雲南市、広島県庄原市、岡山県真庭市（所感）」

高　瀬　　洋

表題の市庁舎建設に関する特別委員会の行政視察として、島根県雲南市、広島県庄原市、岡山県真庭市を訪問したので報告します。

まず、訪問地は、平成 20 年以降に竣工した建物で、西脇市と同等の建物規模の自治体となりました。各庁舎の概要は以下の通りです。

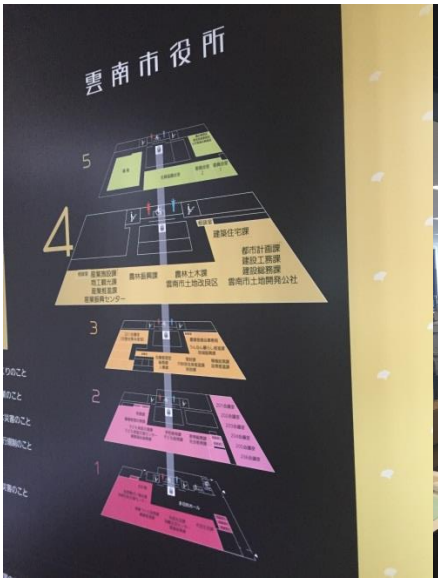
自治体名	島根県雲南市	広島県庄原市	岡山県真庭市
人口	40,850 人	37,008 人	48,204 人
面積	533 ㎢	1,246 ㎢	828 ㎢
敷地面積	6,864 ㎡	3,896 ㎡	18,750 ㎡
延べ床面積	7,628 ㎡	7,429 ㎡	7,353 ㎡
階数	地上５階	地上６階　地下１階	地上４階
竣工年月	平成 27 年７月	平成 21 年３月	平成 23 年３月
総工事費	38.6 億円	37.4 億円	27.4 億円

１．　雲南市

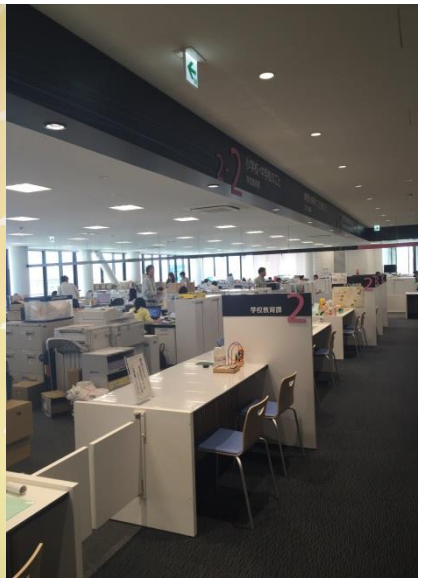
今回訪問した庁舎の中では、竣工が昨年７月であり最も新しい建物です。壁面や天井の建築部材等も近年の傾向というようなものが感じられました。

西脇市の庁舎もこのような感じの建物になるのではないかというような思いをもって視察させてもらいました。

まず、事務スペースですが、柱のない広い空間が確保されており、職員間のコミュニケーションの向上、自由度の高い動線の確保だけでなく、来庁された市民の方にも良く注意が行き届くようになっています。



各フロアの案内パネル



柱のない事務スペース

各フロアのエレベータの横には各階に色分けして、どの部課があるのかが分かる案内パネルが付けられています。また、そのフロアに入居している部課については、より大きく表示されています。この色で目的の部課を憶える市民もいるのだそうです。全体的には、機能的な良い庁舎であると思いましたが、これといった特徴や印象は、私にはそれほど強く残ってはいません。

２．　庄原市

庄原市は、庁舎建設当時の市長の意向で、現在の建設地である地元商店街に隣接した場所に決定したので敷地が狭く、会議スペースや執務スペースはかなり無理をして削減したため、使い勝手が悪い部分があると仰っていました。

また、木材の生産地らしく、内装部材としてヒノキ等が多く使われているのが特徴です。ただ、４階まで届くような杉の大木をシンボルツリーとして用いたりしている点など、建設場所の決定と同様に首長の意向が散見され、50 年使い続ける庁舎の設計という点では反省する部分もあるように思いました。

右の写真は、１階のエントランス（市民ホール）から写した事務スペースのようすです。手狭感はありますが、広くて明るい空間を確保しています。サインもそれほどしつこくならない程度に収まっているように感じられ、好感を持ちました。

１階のエントランスから写した事務スペ

３．　真庭市

玄関前の回廊

真庭市は、平成 17 年に９つの町村が合併して誕生しました。その面積は、828 ㎢と西脇市の６倍以上あります。庁舎の玄関前には、緩やかに弧を描く回廊があり、９本の真庭産ヒノキの柱で支えられています。これは、９カ町村が一つとなって未来を築いていくことを表しているのだそうです。ここも庄原市と同様に木材の産地であり、この回廊だけではなく、地元の木材を建築素材として多用しているところが特徴です。

事務スペースは、右の写真のように、柱が並んでおり今回視察した他の庁舎と違い、広い空間となっていません。柱が多いと、その周りは書類置き場になり雑然としたオフィスになりがちです。窓のサッシもごく普通のアルミ製のもので、お金はかけていないとのことでした。どういう所にお金をかけたのかを尋ねたところ、前述した玄関前の回廊や木質バイオマスのエネルギー棟ということでした。

木質バイオマスを使ったエネルギー活用ということでは、今回訪問した３つの自治体とも導入されていました。中国地方の山間部ということで、冬場の気温は西脇よりもかなり低いのと、それぞれの自治体が林業を産業としていることがその理由ですが、真庭市は冷房も木質バイオマスを燃やすことにより実現していることが特徴です。木を燃やして冷水をつくるというのは、ピンときませんが、希少な設備を導入されています。

最後に共通的な事項として、駐車場について触れておきたいと思います。

今回訪問の３つの自治体とも、それほど広い駐車スペースの確保はできていませんでした。真庭市などは９つの町村が合併しているので、市民の中には本庁舎に来なくても、自宅近くの分庁舎で用が済むことが多いことも理由であるように思います。また、車通勤の職員の駐車スペースは、来庁の市民の駐車場は使わずに、自己負担で庁舎周辺の駐車場を

借りるシステムになっているようです。こういった所は、西脇市も参考にすべきと思いました。

「所感」

坂　部　武　美

３市の庁舎を視察したが、建築規模・建設費等については、それぞれの事情があり比較できないと思っていることから、私なりに感じた点だけを示す。

○真庭市

まず、庁舎は、ヤマタノオロチ伝説に因んだ剣のルーバー(羽板)を日除けとして配置しており、すっきりとしたデザインとなっている。見た目のデザインは重要である。

1階の多目的ホールは屋外と連結しており、ちょっとしたコンサートにも使用でき、また、物販やセミナーにも利用しているとのこと。西脇市も検討の余地があると感じた。

１階から５階までのフロアカラーを桜や桂､銀杏などの色で分けており、色で階数が分かるようにしているのも面白い。

１階は、市民が来庁した際、どういうことを担当している課であるかを知らせるため、通常の課名ではなく、仕事の内容を表示している点も一考と感じた。２階以上は課名で示している。

防災面では、西脇市と同様、庁舎のすぐ横を斐伊川が流れているが、堤防より上に電気室を設けるとともに、災害時の中枢機能を２階に配置している。

位置については、近くに県の合同庁舎があるため、行政ゾーンとして位置づけ、立地したとのこと。また、中心市街地の整備計画を作成中とのことだが、その中でも行政ゾーンとして明記するとのこと。市民の利便性を考えた場合、シビックゾーンとしての考え方は大きい。

○庄原市

庁舎デザインは、シンプルだが、庁舎内は、カウンターや天井、腰板等に木材を多く使い、樹齢80年のシンボルツリーを配置するなど、木材生産地ならではの暖かみのある雰囲気となっている。

１階は､市民ホールとして利用され､視察時も写真展が開催されていた。西脇市の場合も、市民ホールの広さを検討する必要があると感じた。

備品関係は、旧庁舎のものを多く使っており、全て新品にした方が統一性は図れるが、経費面での削減を考えれば、一考の余地あり。

庁舎の立地については、やはり、近くに県の合同庁舎、警察署があることから、行政ゾーンとして位置付けているとのこと。

○真庭市
庁舎デザインは、まず玄関の木材を使った回廊が目に入る。９町村の合併シンボルとして９つの木組みの柱があり、一目で木材産地だということが分かる。バス停の待合所は、板を直交したCLT工法の柱を使っており、木のぬくもりがある優しい雰囲気を醸し出している。西脇市で木材を使用するかは別である。
カウンター、議場の椅子や机も木材を使用していることに脅かされた。
ユンバーサルの観点から障害者福祉協議会のメンバーと２回にわたって基本設計時に協議している点も参考とすべきと思う。
庁舎の位置についても、すぐ横に旭川が流れており、西脇市とよく似ている。近くに税務署、公民館、図書館があることから、雲南市、庄原市と同様、行政ゾーンとして位置付けているから現在地に建設したとのこと。

まとめとして、庁舎の規模については職員数を考え、どのくらいの規模にすべきかは理事者側に任せてよいと思っている。しかし、位置については、まずは防災面で対応できること、そして、官公庁が近くにある行政ゾーンとしての位置づけが大きいことをから、西脇市の場合、現地とカナート跡との２者を選択する場合、市民の利便性の考慮も含めてさらに深く議論すべきと感じた。

「所感」

浅　田　康　子

島根県雲南市

★　市民を守る防災拠点としての整備では・・
２階の会議室が一時的な避難所となる、長期になる場合は、近くの学校の体育館と避難場所になる。災害対策本部には、防災用のカメラ、国交省のカメラ、インターネットでの情報など　一ヶ所で集約出来る。
自家発電は72時間稼働することができる。
建物の構造は、鉄骨造、（制振構造）・・柱を丸くし、中にコンクリートを流し込み強度を高めている。

★　市民サービス機能の充実では・・
総合窓口は設置している、２名体制にしている。
ワンストップサービスは、検討はしたが、導入はしていない。
職員能力が高くなくては対応ができないであろう。
１Fに市民になじみの多い課を配置して、一ヶ所の受付で職員が対応に

来るようにしている。
　１Ｆ・２Ｆは、課名表示でなく、仕事の内容を表示している。
　３Ｆ・４Ｆは、課名表示をしている。

★　ユニバーサルデザインの導入では・・
　トイレ、多目的トイレは、各階に設置している。
　エレベーターは、車いすやストレッチャーが入るようになっている。
　授乳室やキッズルームを整備している。

★　地域の特色を生かした整備では・・
　ロビーを、市民の発表の場として展示やギャラリーに使用してもらっている。
　物販も可能で利用がある。

★　駐車台数は来庁者用に８０台、市民バスの停留所が市役所にもある。
　食堂は設置していない。

　他にも、いろいろ説明を受けました。
　１Ｆ、２Ｆの課名表示でなく仕事の内容で表示しているところに興味をもちました。
　例えば、市民生活課ではなく、戸籍・住民登録・印鑑登録・証明交付のこと、表示されています。なるほど、わかりやすく、一理あるなぁと思いました。
　また、自分が今、何階にいるのか分かりやすいように各階毎にフロアーが色分けされていました。その色も、雲南市の特徴ある樹木のイメージで各階をわかりやすく案内されていてアイデアの良さが感じられました。

　平成16年に６町村で合併が行われています。
　平成27年８月に竣工されていますが、計画当初、建設場所の決定に苦労したとお聞きしました。
　中心市街地と言うところがなく、防災拠点として、災害に強い場所に決められたそうです。
　西脇も、位置の決定には多くの議論が必要だと思います。

　説明をしてくださった方から、執務室や会議室に多くのスペースをとっているので、職員の休憩室がない、あったほうがよかった。また、職場がオープンすぎて、職員同士の話しがしにくいと言う声がある。給湯室が小さいので困るという意見もあると、お聞きしました。
　実際に、仕事をする人の意見を取り入れることの大切さを感じました。
　参考になったのは、１Ｆから３Ｆまでのセンターボイド（エコボイド）

です、吹き抜けにするのは、執務室やフロアー的には、もったいない気もしましたが、空気の流れによって冷暖房の緩和や外光を取り入れることなど、良い面も多々あることを知りました。
西脇新庁舎にも、取り入れることが出来れば、エコのまちがアピールできると思います。
ほかにも、雨水を 120トン蓄えて、トイレの洗浄に使われています。
今のところ、雨水でまかなっているとのことです　いい取り組みだと考えます。
また、再生可能エネルギーを多様化し、省エネや防災の備えに利用できるよう設備が整っていました。
防災の備えは徹底して整備されているのがよくわかりました、大事なことだと思います。

広島県庄原市

★　防災対策についてでは・・
自家発電機を設置し、約４日間の非常用電源を確保している。
市民ホールは災害時の救援体制、一時避難所として利用する。
屋内消火栓用水やトイレの洗浄水として雨水を地下に 140トン貯水している。
★　庁舎の特色
庁舎は、地上６階　地下１階　　鉄骨･鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
庁舎がまちなみと調和することを重要視している。
環境にやさしい「環境配慮型庁舎」である。
庁舎の中に樹齢80年、高さ11ｍ、幹回り 2.2ｍの杉のシンボルツリーがある。
★　耐震安全性の目標
建物規模等を考慮し、免振工法は採用していない。
ＳＲＣ造（鉄骨・鉄筋コンクリート造）に決める。
★　財源についてでは・・
合併協議会で当時の市長の考えで庄原に建築すると決められていた、その時の予算は51億円だったが平成18年に基本構想が出来、41億１千万に変更となる。その後、議会より予算を抑える。
決議があり31億円になる。最終的に36億８千万円の費用となる。
予算の都合で免振工法ができなくなった。

庄原市は、平成の大合併といわれた平成17年３月に１市６町が新設合併し、新庄原市が誕生している。人口は、37,000人余りで西脇のほうが 5,000人ほど多い、市の面積が1,246.49㎢と西脇市の約10倍の広さを有します。

あまりの広さに、ただただ驚くばかりです。この広さは、広島県の約14%を占めているそうで、近畿以西では最大といわれています。

１市６町の合併はそれぞれの思いがあってのことと思います。市内の端々までに同じサービスが届くか気になるところです。庄原市の特徴は、市域の84%が森林が占めていて、市の大きな資源となっている。木質ペレットを木質バイオマスボイラーで燃焼させて、その熱を使用し夏季は、吸収式冷温水機で冷水を作って冷房に使用している。森林振興にもなり、土地に合わせた取り組みがされていると思いました。

説明をしてくださった担当の方の話しの中で、いろいろと書き留めたことがあります

執務室が狭い。授乳室や職員休憩室の希望があったが、出来ていない。

商業地域で第１種住居地のため、建ぺい率が80%であった。

用地の 200%の床平べいしか建てられない地域であった。

庄原に建てることが先に決っていたので、不自由な点がある。

合同庁舎があるところが便利という理由もあった。

一部、複層ガラスにしているが、予算の都合で全面複層ガラスに出来なかった。

ただし、防災室は衛星電波が届くガラスにすること。

その他にも、庁舎の空調熱源にバイオマス、地中熱の環境エネルギーを取り入れていることなどを詳しく説明していただきました。

今から、建設されるならお金を下げるばかりでなく、施設の整備を重要視して欲しい。

庄原市は、予算上、市民や女性に不便な点がある。

何が必要か、どういった施設が必要かを考えた上、面積や予算を考える必要があると提言をいただきました。合併協で決められた場所や予算で建築の際に大変苦労されたことがうかがわれました。

西脇市は、今からのことなので、庄原市への視察が大いに参考になりました。

岡山県真庭市

★　防災拠点としての整備

書庫・倉庫面積が、地方債の要件で床面積、職員数の関係で広く取れなかった。

書類の保管場所は大きく必要である。

庁舎が防災拠点となっている。

72時間の自家発電装置がある。

堤防が決壊した場合１Ｆが浸水の恐れがあるため、サーバー室を３Ｆに置き電気系統を守ることができる。サーバー室は免震床システムが導入されている。
庁舎棟は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）である。

★　市民サービス機能
長方形の建物であり１Ｆは、市民に密着した課を置く。
全体を把握しておく必要の総合窓口でなく、総合案内を設置する。
授乳室・キッズルーム・オストメイトトイレがある。
課に番号を付けて、来庁舎の誘導をしやすくしている。

★　ユニバーサルデザイン
木を使った内装で室内が明るく感じられる。
障害者用トイレは、１Ｆから４Ｆまで同じレイアウトにしている。（トイレの位置、トイレットペーパーの位置を同じにする。）

★　地域の特色を生かした整備
玄関の真庭回廊といわれている造りは、９カ町村が合併し、一つとなって未来を築いていく事を表している。
真庭回廊には８千万円の建設費

真庭市役所を訪れて最初に驚いたのが、ヒノキで造られたという正面玄関の、真庭回廊でした。９カ町村の合併ということで、様々なところに、「９」が意識されていました。
９つの合併で本庁機能が３つの庁舎に分散され７つの支局ができています。市民にとっては、どの庁舎にどの部局があるのか　分かりにくいのではないかと思います。
また､広い市域のため､移動にかなりの時間がかかるように思いました。

庁舎を避難場所とはせず、となりの公民館が避難場所となっていました
職員の駐車場は月額 1,600円を集金し賃貸の駐車場を確保しているということですが公共交通がなくて自家用車通勤が多いのなら、駐車代は職員から集めなくても良いのではないかとアドバイスをいただきました。いろいろ煩雑なことが有るらしい。

真庭市も、市域の８割が森林であり、その森林資源でバイオマスエネルギーの活用がされています。
庁舎内のほとんどの空調容量が賄われています

雲南市役所・庄原市役所・真庭市役所と視察を行いました。

それぞれが、地元の特徴を出されていました。
特に、防災への備えや、環境に配慮した設備など、これから取り組んでいく西脇市には多いに参考になりました。

どうしても議場が気になり、予定より多くの時間を費やしてしまいました。
雲南市　議会は、徹底して地元の木にこだわっているところが、郷土を思う気持ちの表れだと感じました。居心地がよく、明るい雰囲気でした。
５階の議会フロアには会派の部屋も会議用になっていて、個人の机はない。不自由ではないかと思う

庄原市　議場内の壁面は、マツ・ブナ・サクラ・スギ・ヒノキ・ナラ　の６種類の木が使われている。また、旧市町で使われていた議場の家具や備品などは再利用されていました。
議員の机などは、新品かと思われるほどきれいにリユースされていました。
会派の部屋の希望もあるが出来ていない、全員の控え室となっている。
辛抱している部分がある。正副議長室は別々が良い・・副議長の意見
議場は議場としてのみ使用する。
円形がよいと思う・・事務局長の意見等、様々な話が聞けました

真庭市　議場は、真庭市を象徴する木質が豊かに使われています。
議会棟は、議会からの提案があったので、議会にまかせた。
議長、副議長の部屋は一つでよいと議会からの提案があった。
議場で委員会を開催している。

議場だけでも、それぞれの考え方があり、それにより構造も当然違ってくる。
視察で学んだことを、取り入れて、西脇の議会棟をどのようにしていくか、将来を見据え、西脇の特徴ある議場になるよう、議論を重ねていきたいと思います。

「市庁舎等建設に関する特別委員会　所感」

村　井　正　信

雲南市

雲南市は出雲の南に位置しており、神話や伝説に関した場所が数多く残

っている。その一つがたたら製鉄で、庁舎の外見はやまたのおろちと戦った刀剣をイメージしているとのこと。市の伝統を新しいデザインで庁舎に表現するのは、私にとってはとても新鮮であり、参考となるものであった。

防災面では、河川に設置してあるカメラの映像が災害対策本部室に映し出され的確な対応が取れるとのことであったが、庁舎の位置そのものが浸水想定場所となっており基本的な疑問が残る。

業務表示について、住民の来庁が多い１階・２階部分は業務内容の表示がしてある。この方法は住民にとっては分かりやすいもので大いに参考にすべきと感じた。

各階に個室の相談室がありキッズコーナーも設置してあり、住民の立場を考えた対応が行き届いている。そしてエレベーターには、庁内での救急患者が出た場合に運搬するためのストレッチャーが入ることが出来るようになっている。

各フロアーごとに床面の色を変えるなど非常によく考えられており、市民の声を良く聞かれているのだろうと痛感した。

土曜日・日曜日には庁舎内の会議室使用が出来るようになっている。西脇市でのアンケートを見ても、市役所に来る人は年に数回という人が圧倒的に多い。市役所は市民のものと感じてもらい、市役所に来てもらいやすい雰囲気をつくるためにも会議室の解放は必要だ。

全体を通じて感じることは、当初のコンセプトが明確になっており、それを作り上げるためいろんな人々の声を聞いているのだろう。この事が大切なことだと再確認した。

庄原市

庄原市の庁舎建設についてまず感じたことは、どのような庁舎を建設するのかということが明確でなかったため、特徴がないということである。場所選定で様々な意見が出て最終的に現地建て替えになり、その為に用地買収費・補償費として６億４千万円を使っている。これは総費用額の約17パーセントにあたり、そのことがいろんな所に影響を与えているのではないだろうか。

お寺に囲まれた場所というイメージで、駐車場も庁舎の前ではなく、各階を見せてもらったが執務室が狭いようであり、業務に影響が出ているのではないだろうか。コンセプトを明確にし、費用をどこに使うかをはっきりすることの重要性を感じた。

庄原市は市域の84％が森林を占め、豊富な森林資源を有するとのことで、木を材料としたボイラー熱で冷暖房をしていること、そして雨水を貯めてトイレの洗浄水などに使っていることなどが私にとっては新しい視点であった。

真庭市

真庭市は、事前にいろんな団体に話を聞きそれを庁舎設計に行かしていると感じる点が多い。そして木の産地であることを出すため、様々な点で木を使っている点が評価できる。正面入り口の「真庭回廊」やバスの待合所、受付の事務台、柱の表層等いろんなヶ所に木材が使われており優しい感じがする。庁舎内は見た感じが広くなっており、来庁者も気分的にゆったり感を感じることが出来るのではないだろうか。

特に、キッズルームも広く授乳室もあり、エレベーターも車いすが回転できるような広さを確保してあり、障害者団体との話し合いの成果が出ていると感じた。これらは是非取り入れたいところである。その他にも課の表示が分かり易く、１階入り口に少し大きめなスペースがあり、そこには机が置いてあり、電気スタンドが設置してありバスを待つ高校生が勉強をしていた。このような空間はとても大事で市民か市役所を大事に考えてくれる第一歩になるのではないかと感じる。

全体費用が27億3,500万円で一般財源が4,630万円。合併特例債が14億8,700万円その内の実質的借金額は４億7,500万円。数字的にも無理のない範囲と思われる。

「新庁舎建設はコンセプト次第である」

林　　晴　信

たくさんの庁舎を見てきたと思っている。

議会棟の委員会から数え始めると、加東市、三田市、太子町、南あわじ市、宍粟市、豊岡市、朝来市、そして雲南市、庄原市、真庭市とこれで10の新庁舎を見たことになる。

今回は雲南市、庄原市、真庭市と３か所の庁舎の視察をしたが、それぞれの工夫はあるにせよ、スタンダードな庁舎ばかりで、正直目を惹くようなものはなかった。

普通に作ればこんな風になるんだろうなぁ、ということを確認できたのは良かったかもしれない。

そういう意味でも以前に視察した太子町庁舎がいかに特徴的かというのも再確認できた。

私自身、西脇市には豪奢な庁舎は必要ないが、個性的でキラリと光るものがあるような庁舎を期待したいが、さてどうだろう・・・・・

話として興味深かったのが、庄原市庁舎は競うような相次ぐ議会からの経費削減要請に応え続けた結果、中途半端な出来になってしまい、現在は

議会も反省しているという。
40年、50年という長い間使用し続けなければならない建築物なのに、今更後悔したところで、もはや手遅れである。
西脇市庁舎はこういうことだけは避けてもらいたいと思う。
装飾系はいくら削減しても構わないが、機能面を削減対象とすることだけは避けておく。
これが今回の視察で得た私の考え方である。
予算の範囲でできるだけ安全安心で機能的な建物にしてほしいものだ。

３つの庁舎とも木質チップ等を使った再生エネルギーを使っていたが、供給やコスト面から見ると、西脇市に特段取り入れる必要性は感じない。

あと、３つの庁舎ともに食堂は無い。
私自身は食堂はあったほうが良いと思うのだが。
一般利用も頭に入れた設置とすべきだと考える。
尤も、現在の庁舎で食堂を運営している民間の方にする意思があればの話だが。

また視察したほぼ全ての庁舎で職員駐車場は有料である点。
市内公共交通機関利用促進のためにも西脇市も導入すべきかもしれない。

さて、機能面においてはまた特別委員会で合意形成した報告書で執行部に提案してゆくことになると思うのだが、目下の一番の懸案事項である「この先の西脇市を見据えた庁舎をどうするか」である。
都市計画や立地適正化計画ともマッチした新庁舎を作り上げなくてはならないのは自明の理。
市庁舎を一つの核としたまちづくりが伴って初めて新しい庁舎建設の意義が出てくるのだろうと考える。
目先のことに拘ったり、また木を見て森を見ず的なことがないように、新庁舎と新市民会館の建設に臨みたいものである。

「庁舎等建設に関する特別委員会視察所感」

村　井　公　平

１　市民を守る防災拠点としての整備
○１階ロビーを災害対応空間として広く取られていた。これの必要性は高く是非考慮すべき事項である。
○災害対策本部として使用する機材等を設置した(設置できる)会議室が設置されたおり、設置すべきと思った。

○庁舎が停電した場合、72時間の非常用電源を確保されていたが当市としても確保するとは思うが必要であると思う。
○備蓄については、旧町庁舎に分散して備蓄されていたところもあったが、庁舎に近接した場所に備蓄を考えるべきである と思った。市内全体が一度に被災することは考えにくいため。

2　市民サービス機能の充実
○３市ともオープンフロアーになっており、又、総合窓口が設置されている市が多く設置する必要はあると思ったが、ワンストップサービスと、弱者的市民の利用を考えた部署の配置と合わせ検討すべきと思った。(市民は定位置で職員が移動する等を含め)
○市民に解りやすい看板の設置が必要である。例えば(高齢者・障がい者の福祉のこと)(健康づくり・母子保健・予防接種のこと)
○プライバシーが守られる相談室が多く設置されていた市があり、今後そう言ったことが増加すると考えられるので考慮すべきである。

3　ユニバーサルデザインの導入
○障がい者、高齢者、乳幼児、性別等々への対応はどこともある標準的にされていたが、雲南市では竣工後、給湯室や職員の休憩室がほしかったとの意見があったと聞いた。構想段階で充分な洗い出しが必要であると思った。又、真庭市では、キッズルームやお子様連れへの対応等もされており、検討項目に加えるべきと思いました。それと、ストレッチャーが入るエレベーターを設置された市がありこれも検討項目であると思いました。

4　地域の特色を生かした整備
○あまり参考になる事例はなかったと思うが、３市とも林業が主産業なので、木材が多くあるため木質バイオマスエネルギーを活用されておりました。当市では、原料確保が困難と思われ、安価なエネルギー原料で空調エネルギーを確保すべきと思いました。

5　議会関係について。
○議場の机等は地元産木材の集成材を多く使用されていたところもありました。又、旧庁舎の備品を活用されていたところもありました。議場内の設備機器については最新の機器が設置されておりましたが、会派毎の控室はなく、委員会室も大きめの会議室を作り、必要に応じ区切って使用されており、あまり参考にすべきところはないと思いましたが、議員協議会や予算決算特別委員会を議場で開催されているところもあり、今後検討課題と思いました。又、議場の周りを展望場所とされているところが２市あり、これも今後の検討課題と思いました。

6　全体的な感想

○それぞれの市の事情により庁舎建設がされたと思いました。なぜなら、建設位置を前市長の時に決定され、新市長になってからは議論もなく建設されたと聞きました。

庁舎としては、３市とも斬新なデザインとは思えない建物で、全体的に安価でコンパクトな感じがしましたが、床は３市とも全体にカーペット(マット)が使われておりました。これはぜひ採用してはと思いました。又、耐震については、耐震構造と制震構造がされておりましたが、先般の熊本地震を考えると免震構造を採用すべきと思いました。

まとめとして、庁舎建設に当たっては、どの市民にとっても安全安心の確保、公共交通を含めた利便性、わかりやすさ、使いやすさ、職場の勤務環境と自然環境に優しい庁舎であることが最低条件と思いました。